



コミュニティファームを使った居場所づくり事業

presented by 園北ファーム



大人から子ども、障害のあるなしに関わらず、人々が集い、つながりを育む場

コミュニティファーム

コミュニティを元気に、環境教育や食育といった地域課題解決に貢献



園北ファーム

代表 内田 大造

- 「農あるまちづくりの実現」のため、**2018**年に農地を借りてスタートしたコミュニティ農園運営団体。今年で活動**7**年目！
- 設立趣旨
 - ① 多くの子どもや子育て世代が、農業や食を楽しめるまちづくり
 - ② 若者が都市農業参加し、半農半○(ヨガ.etc…)で暮らせるまちづくり
 - ③ 誰でも参加できるコミュニティ・共生農園
 - ④ 市民、企業、学校、行政等との協働のまちづくり
- 現在、主要メンバーは13名(20~80代)。代表以外はボランティア。
- 市内の園田地区を中心に11の農地(約13,000㎡)を確保
※甲子園グラウンド(約13,000㎡)と同規模



今回活用するコミュニティファーム(8カ所+1カ所(R7年度~))



有機無農薬栽培



多様な作物を栽培



継続してJAと農地確保に取り組んでいます!



コミュニティファームでのこれまでの取組

年間1,000人
以上が利用



「今の仕事をしながら農業を
副業にしたい」
「定年後農業をやりたい」
という若者の農業体験



障害者の事業所とコラボ
して、障害者の農業体験



・幼児の収穫体験
・小学生の環境体験学習
・中学生のトライやるウィーク
など こどもたちの教育



企業と連携した収穫物の
加工・販売



大人から子ども、障害のあるなしに関わらず、人々が集い、つながりを育む場

不慣れな文化・
習慣・言語の問題等で
孤立する外国籍住民

家や学校に居場所が無い、
社会との関わりがしんどい
と感じるこども・若者

コミュニティファーム をもっと必要とする人がいるのでは？

コミュニティを元気に、環境教育や食育といった地域課題解決に貢献



コミュニティファームを必要とする人々

① 尼崎市地域福祉に関するアンケート調査結果

身近な地域の相談窓口である民生児童委員が「身寄りのない高齢者」「ひきこもりの世帯」等の孤立に関する課題の増加を実感

生活困窮者等就労準備支援事業利用者約80人
多くが40・50代

② 尼崎市外国人生活実態アンケート調査結果

多くの外国籍住民は「地域で行われている活動や日本人・外国人との交流」について関心を示しているものの、近年急増しているベトナム国籍などのニューカマーと言われる人々は、不慣れな文化・習慣・言語の問題等で、コミュニティに参加できずに孤立しやすいといった結果も

ユース相談支援事業利用者約80人（概ね15～29歳）
多くが18歳以上

③ 令和4年版子供・若者白書

居場所の数の少ない子ども・若者ほど、困難な状態の改善経験が少なく、支援希望や支援機関の認知度等も低い傾向がみられる一方で、「どこにも居場所はない」と答えた子ども・若者は前回調査結果より増加

地域で孤立し課題が深刻化 ⇒

ごみ屋敷・多頭飼育問題、
ひきこもり、犯罪や非行、自殺、etc…



大人から子ども、障害のあるなしに関わらず、人々が集い、つながりを育む場

不慣れな文化・
習慣・言語の問題等で
孤立する外国籍住民

家や学校に居場所が無い、
社会との関わりがしんどい
と感じるこども・若者

コミュニティファーム 生きづらさを抱える人の架け橋に！

コミュニティを元気に、環境教育や食育といった地域課題解決に貢献



コミュニティファームでやりたいこと①（育てる）

地産地消の取組（尼崎の伝統野菜「田能の里芋」等の栽培・加工・販売）を通じた様々な生きづらさを抱え孤立・孤独状態にある人への就農体験等の機会を創出

就農体験等の想定対象者

次の利用者の中で本人の能力・特性等から就農体験等が効果的と判断する者

- ・生活困窮者等就労準備支援利用者 約80人
- ・ユース相談支援利用者約80人

就農体験等

作物を育てることで、
自分の努力や収穫等
での達成感を実感

販売体験や地域交流の
イベント運営に参加する
ことで、地域社会への直
接的な貢献を実感



自己
肯定感

社会的
有用感

社会的
スキル

支援計画
の進捗を
定期評価

重層的支援推進担当



社会経験
が少なく、
自信がない

人との
関わり方が
わからない

支援目標・
期間等を設
定した支援
計画を基に
受入依頼

重層的支援推進担当

コミュニティファームでやりたいこと②(つなげる)

コミュニティファームで育てた作物の収穫体験や芋煮会などの地域交流イベントを実施することで、孤立しがちな人の地域との交流の機会を創出

地域交流事業

支援機関と協議し、孤立しがちな人が参加したいと思えるイベントを企画・実施

地域交流事業イメージ

- しめ縄づくり(日本伝統文化を知ろう)
- 畑 de デッサン・どろんこ遊び
- 多国籍料理教室(外国野菜を食べよう)
- 芋煮会・田能の里芋伝承講座

様々な生きづらさから
孤立しがちな人

みんなと
関わりたい
けど…

仕事以外
で人と話す
機会が…

支援機関
から対象者
に参加案内
を実施



地域住民との関係性を構築

コミュニティファームでやりたいこと③（よりそう）

就労体験や交流事業の参加者との交流を通して、悩みごとや困りごとを聞き、必要な支援機関につなぐ等、生きづらさを抱えた方に寄り添い、支援します。

様々な生きづらさを抱え
SOSを出しづらい人等



寄り添い支援

専門職とは異なる住民の立場で
かわり、安心して話のできる関係性を構築



【参加者/支援対象者】 【農園スタッフ(支援担当)】

重層的支援
推進担当・
市社協と
連携

支援機関等



課題に応じた
保健福祉等の
専門的な支援



地域の
支援者・支援団
体の紹介等

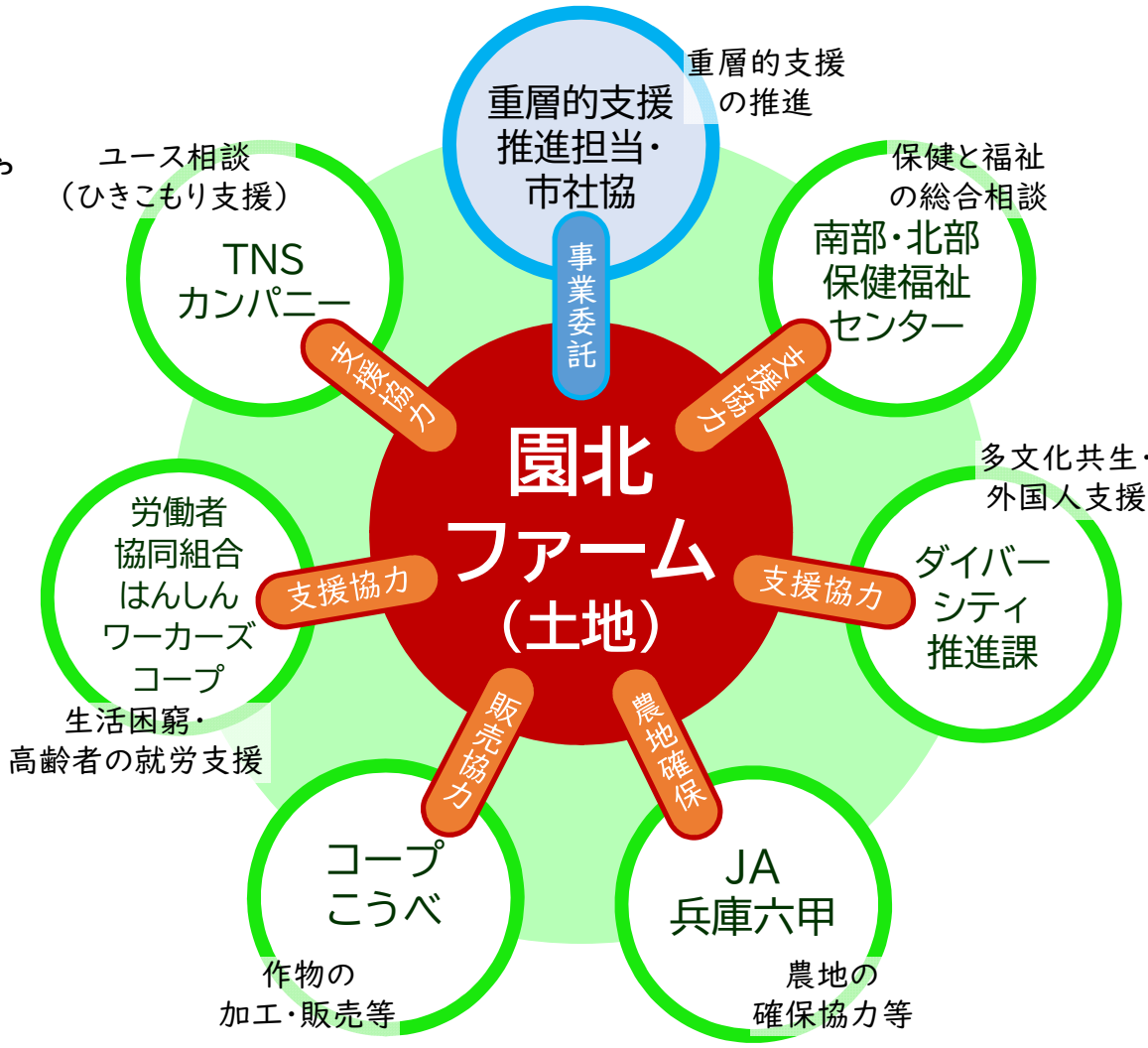


コミュニティファームから育む多様な関係性・協働

園北ファームを中心とした連携イメージ

重層的支援推進担当・市社協と協働し、様々な支援機関や支援団体との連携を進めます。

- (主な連携先と連携内容)
- ひきこもりのこども・若者を支援するユース相談支援事業や生活困窮者・高齢者の就労支援を行う就労準備支援事業等の支援対象者の中で、就農体験等を必要とする対象者を受入れ、連携して必要な支援を提供
 - ダイバーシティ推進課と連携して、外国人向けの地域交流イベント及びイベント案内を実施
 - コープこうべの協力により、収穫した里芋等の販売及び販売体験先としての対象者の受入りを依頼
 - JA兵庫六甲の協力により、都市農地の確保に向けた関係者との調整の実施
- etc・・・





尼崎市が目指す取組

「ひと咲きまち咲きあまがさき」の周りに描かれたイラストは、市の支援を受けているAさん（元ひきこもり当事者、20代）が作成してくれました。

Aさんは、自分に自信が持てず、はじめはあらゆることに無関心で、人と接することも苦手でした。

しかし、就労支援の中で、得意のイラストを活かしたボランティア活動等に参加し、多くの人と接して人とのかかわり方を学ぶことで、しだいに前向きになり、現在は仕事をしながら、イラストレーターという夢の実現に向けて、独学で勉強を続けています。

尼崎市では、こうした**誰もが持っている「可能性」を尊重し、ささえ、伸ばしていく**取組みを進めています。

第4期あまがさき地域福祉計画 基本理念

互いに尊重し つながりささえあい 安全・安心に
“**ともにいきる**”まち あまがさき